

# 図書館報

# 光 丘

No.141



## 庄内地震と震災予防調査会

立命館大学教授 北原 糸子

十年以上前、明治二十七年（一八九四）年十月二十二日に起きた庄内地震のことを調べるために、光丘文庫に伺ったことがあります。この明治中期は、地震や洪水が多く、庄内地震の四か月前の六月十五日、東京でも地震がありました。当時、工業化が進み、この地震で、多くの煉瓦造りの煙突が折れましたので、東京の地震は煙突地震とも名づけられています。この三年前には、近代日本が経験した最大の内陸地震、濃尾地震が発生して、岐阜・愛知県を中心に七千人もの人が亡くなるという震災が発生しました。地震対策を立てなければ、日本の近代化も危うしということが政府関係者

の間で共通の認識となって、震災の翌年一八九二年に帝国大学の地震学や建築学の学者たちが中心となって、震災予防調査会が作られました。震災予防調査会として、実際に発生した地震の現地調査を最初に行ったのが、一八九四年六

月十五日の明治東京地震と十月二十二日の庄内地震だったので

期でしたので、地震対策の中心は、まず建物が倒れないようにすることでした。

庄内地震が発生した五日後には、この震災予防調査会から派遣された学者たちが、震災地の酒田に続々やって来しました。

また、当時は写真が大変珍しい時期でもあり、災害の現場を写真にとることが漸くはじめられた時代でした。震災予防調査会の総力を挙げての調査でしたから、この調査に派遣された一群の人たちの手で震災現場が撮影され、「山形県下地震写真帖」として、現在は国立科学博物館に所蔵されています。

予防調査会から派遣されていま

そして、震災予防調査会の調査報告三号（一八九五年三月）

す。また、後に建築史の大家となる関野貞は、当時、造家学（建築）の学生でしたが、十月二十

九号（一八九六年五月）に亘つてその成果が掲載されましたが、その三号には、「山形県下地震写真帖」の写真そのものと見紛

七日に東京を出発、黒沢尻へ行き、そこからは人力車と徒歩で、

二十八日に横手↓大曲、二十九日に秋田↓三十一日に本荘↓十一月一日に西目村↓二日に平沢村↓吹浦↓三日によくやく酒田に辿り着いています。ここで、

辰野金吾造家学科教授と学生五

名と合流、八日間酒田に滞在、調査しました。当時は、地震の学理的な進展はまだ望めない時

期でし

期でしたので、地震対策の中心は、まず建物が倒れないようにすることでした。

また、

また、当時は写真が大変珍しい時期でもあり、災害の現場を写真にとることが漸くはじめられた時代でした。震災予防調査会の総力を挙げての調査でしたから、この調査に派遣された一群の人たちの手で震災現場が撮影され、「山形県下地震写真帖」として、現在は国立科学博物館に所蔵されています。

そして、

そして、震災予防調査会の調査報告三号（一八九五年三月）

す。また、

す。また、後に建築史の大家となる関野貞は、当時、造家学（建築）の学生でしたが、十月二十

七日に東京を出発、黒沢尻へ行き、そこからは人力車と徒歩で、

二十八日に横手↓大曲、二十九日に秋田↓三十一日に本荘↓十一月一日に西目村↓二日に平沢村↓吹浦↓三日によくやく酒田に辿り着いています。ここで、

辰野金吾造家学科教授と学生五

名と合流、八日間酒田に滞在、調査しました。当時は、地震の学理的な進展はまだ望めない時

期でし

期でしたので、地震対策の中心は、まず建物が倒れないようにすることでした。



「山形県下地震写真帖」

うような見事な石版画で描かれた震災被害の実景が載せられています。当時はいまだ、写真を印刷する技術が一般化していません。そのため、写真で撮影した情景を石版画で印刷するという事情があったのです。

さらに興味深いことには、現地の建物の倒壊状況を踏まえて、震災に強い耐震構造策が山形県への提言としてまとめられました。一年後には官庁、小学校などでどれほどの提言を取り入れているかを再調査し、「本会（震災予防調査会：引用者）カシシタル耐震構造ハ殆ト其ノ利用セラレタル場合アラサリシカ如シ」、つまり、震災予防調査会が総力を挙げて提案した耐震強化策は採用されていないと嘆いています。ただし、酒田小学校（跡地は、現在の酒田市立図書館）、警察署などは耐震策の採用が期待されると述べるに留まっています。震災後一年の復旧状況は「昔時ノ半ニ満たス」、つまり、とても昔の姿には戻っていない状態であったからです。一年以上経過した東日本大震災の被災地も復興は大変な課題です。今も昔も、災害から早く復興を成し遂げることは、被災地の願いですね。

# 案外知られていない

## 身近な鳥の生態(三)

日本白鳥の会理事

角 田

わかっ  
分

でツバメ前線は北上しているようにも思いました。

### 抜群の飛翔技術で……

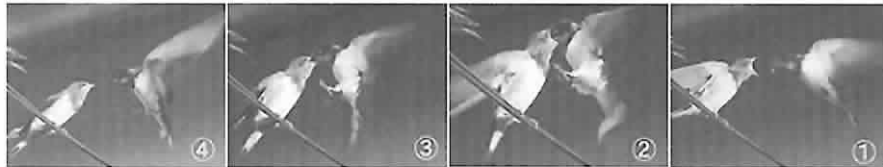
左の写真は、巣立った子ツバ

春を感じるのにウグイスの初音がありますが、私は、ウグイスの初音には春の訪れを感じ、ツバメには、本格的な春の到来を感じます。

一面真っ黄色な菜の花畑の上をスイスイと飛び回るツバメの姿は、まさに春真っ盛りという感じですね。

そのツバメ、庄内地方にはいつ頃やって来ているのかご存知ですか。

私が、今年ツバメを酒田市で初認したのは四月十二日ですが、四月三日にすぐ近くで見たよという方もおりました。あなたの初認は、いつでしたでしょうか。NHKラジオでは、三月二十八日に高知で飛来を確認したとありましたから、庄内で四月三日初認とすると約一週間で庄内に到着していることになりそうです。桜前線と比べると結構早い速度



メに親が餌を与えている連続四枚の写真です。①は、親鳥が飛びながら餌を与えようとし、②は、飛んだまま、口の中にエサを入れ、③④は、餌を与えたあと、バツク飛翔で飛び去って行く写真です。ヒナの体に足の指も触れず衝突もしないで、餌を与

えられるのです。

ツバメは、上の写真のように長く鋭く上がった翼や尾羽を巧みに使ってヒナに餌を与えたり、飛んでいる虫を捕らえたり、飛びながら水を飲んだりする飛行術の所有者です。上の写真のツバメも尾羽を広げたり、翼を羽ばたいたりして、スピードを落としたりヒナにぶつからないようにしているのがわかりますね。

### 燕尾は

#### 長いほどモテる

燕尾服という言葉はもう死語扱いでしょうね。でも、燕尾と言われるようにツバメの尾羽と同じ形態をしているので、昔はモーニングのことを燕尾服と呼んでいたのです。

そのツバメの尾羽(燕尾)が長いほどメスにモテるといことを、実験で確かめた人がいたのです。

尾羽の短いオスツバメに長いオスの尾羽を切り取ってくっつけて長くしたら、メスにモテたと言っています。

小鳥の中には、色彩豊かで、鳴き声の良い鳥がメスに選択さ

れる傾向があるそうです。そのため、オスが選ばれようと彩りをきれいにしていく性淘汰が起り、オスがどんどん色彩豊かになってきたとも言われています。オスはメスに選ばれないと、自分の遺伝子を残すことが出来ないのです。

他の小鳥の場合、メスに選ばれる基準が、鳴き声や色彩ですが、ツバメのメスには、長い尾羽のようです。長い尾羽で生きているというのは、生活力があつて優秀な遺伝子を持っていると思えるらしく、少しでも我が子を強く優秀な鳥に育てたいという願いからの選択行動と思われるかもしれません。

そう言えば人間界でも、昔は汗臭いのが男の象徴みたくだったのが、今はイケメンとか、化粧する男子の出現などという性淘汰があるのを思い出しました。

### 『若いツバメ』

#### という言葉は

#### 当を得ている？

もう一つこのツバメに関わる死語とも言える『若いツバメ』という言葉がありました。この

若いツバメという言葉、ツバメの世界では、全くないことではなく、むしろ日常的に観察できる状況であることをご存知でしょうか。

ツバメを観察していると、ツバメのオスもメスも頻繁に浮気(婚外婚)をしているというのです。メスの浮気を防ぐためにオスは常にそばにいて、他のオスを追い払っているというのです。それでも、実際に産卵している卵の二割近くは、別のオスのDNAのものであるという調査結果も出ています。オスも他のオスを追い払いながら、別のメスと交尾をしているのです。

ここでも、前項と同様少しでも優秀な遺伝子を持つ子を育てたいという、ツバメの母親としての切実な願いがあるようです。今の亭主よりもつと優秀な遺伝子を……という思いが、若いという選択肢になるのかなと思ったりもするのです。

ツバメの行動を観察して『若いツバメ』という言葉を作ったとしたら、この言葉を作った方に脱帽ですね。

# 「キュー植物園と ウエリントン植物園」

東北公益文科大学 ニュージーランド研究所

遠山茂樹

ロンドン郊外のキュー地区にあるキュー植物園は、世界屈指の植物園である。一八六五年、この植物園の園長に就任したジョゼフ・ダルトン・フッカー卿は、すぐれた植物学者であると同時に、生来の探検家でもあった。北米、南極、ニュージーランド、タスマニアを探検し、『ニュージーランド植物誌』などの著作も残した。彼はまたインドやヒマラヤを訪れ、世界第三位の高峰カンチェンジュンガ周辺でプラントハンティングに従事し、多数のシヤクナゲを英国にもたらした。今日、英国の初夏をいろいろるシヤクナゲは、もとをただせばフッカーが持ち込んだものなのである。キュー植物園は英国王立協会の会長も務めたフッカーの時代に、たんなる珍種の植物の蒐集施設から植物学の一大研究センターへと変貌をとげることになる。

一八六八年といえ、わが国では「御一新」の年にあたるが、ニュージーランドでは最初の植物園がウエリントンに創設された。このウエリントン植物園の初代園長ジェイムズ・ヘクター卿はエディンバラ大学で植物学や動物学を修め、傑出した地質学者であると同時に、フッカー同様、生粋の探検家でもあった。二年あまりのカナダ探検旅行ですぐれた業績をあげ、英国地理学協会からゴールド・メダルを授与され、スコットランド王立協会の会員にも選ばれた。



ジェイムズ・ヘクター卿

その後、ヘクターは英国政府からニュージーランドに派遣され、南島を探検、貴重な岩石・化石・鉱物を蒐集した。それらは一八六五年にダニデンで開催された勸業博覧会で展示され、大きな反響を呼んだ。この博覧会の成功が本国政府に高く評価され、ヘクターはニュージーランド協会（のちの王立協会）会長、地質調査局長、ウエリントン植物園長など複数の要職に就いている。

キュー植物園の園長フッカーとウエリントン植物園の園長ヘクターは、頻りに往復書簡を交わしていた。そこからは両植物園が活発に植物の交換を行っていたこと、と同時に、植物を生きたまま運搬するのはなかなか容易ではなかったことがうかがえる。

当時、ニュージーランドから英国まで、船で通常三ヶ月、長くと五ヶ月もかかった。植物の輸送には、ウォードの箱と呼ばれるガラス張りの密封された木製の箱が使用された。この箱の発明によって、長い航海のあいだも、水をやる必要がなく、植物を運ぶことが可能になったのである。ウエリントンに入植者たちが到着しはじめていた一八四〇年までには、この箱の使用はすでに常態化していた。

とはいえ、実際には長い航海に耐えうる植物はきわめて少なかった。一八七〇年にウエリントン植物園からキュー植物園に送られた植物は「すべてが枯死し、腐っていた」。フッカーはヘクターにこう書き送っている。フッカーが皮肉まじりに、ウオ

ードの箱を「ウォードの棺」と呼んだのも、無理からぬことであつた。

英国はカリブ海に浮かぶ島々をはじめとして、世界各地の植民地に次々と植物園を建設していった。フッカーがキューの園長だった時にアマゾンから持ち込まれたパラゴムノキの種子は、キュー植物園で発芽し、その苗木はセイロンの植物園を経て、シ

ンガポール植物園に運ばれ、マレー半島の各地に移植された。マレー半島におけるゴム産業の勃興において、植物園の演じた役割は大きい。それと同時に、温室の発達も見逃せない。

キューの大温室（バーム・ハウス）が建設されたのは、ほかならぬフッカーの時代であつた。一八八三年、フッカーは世界

各地の植民地に創設された植物園の責任者にみずから作成したガイドラインを示し、相互の情報・植物交換の必要性を説いている。指針の中には、顕花植物とならんでシダの標本室を設置するのが望ましいとの記述もみられる。シダはヴィクトリア朝

の英国ではシヤクナゲとならんで人気の高かった植物で、時代を反映している。シダの意匠をあしらった銀製のティー・ポットが出現するのも一九世紀後半のことで、アフタヌーン・ティ

ーの習慣がはじまった時期と軌を一にしている。そういえば、ニュージーランドのラグビーチーム「オールブラックス」のロゴデザインのもチーフになっているのは、「シルバー・ファーン」。すなわち、ニュージーランド固有のシダ植物である。ニュージーランドはシダ植物の宝庫でもあるのだ。

キューから送られてきたガイドラインに目を通したヘクターは、各項目の欄外に走り書きで、逐一「済み」と書き込んでいる。業務の遂行を一つひとつ確認し、あたかも満足しているかのような。ヘクターはキュー植物園の指示に忠実に従っていた。

このように、一九世紀後半にはキュー植物園を中心とする人的ネットワークが植物園を介して形成されていた。植物園は本国と植民地を結ぶもうひとつの紐帯であつた。大局的にみれば、ウエリントン植物園の創設も英国の植民地帝国形成のなかに位置づけて考えることができるであろう。ヘクターがスコットラ

ンド人である点も興味深いが、彼が園長を務めていた一八六八〜九一年まで、ウエリントン植物園は間々「ウエリントン植民地植物園」と呼ばれた。ウエリントン植物園も、植民地時代の申し子だったのである。

# 茶筌供養祭

なごみ会会長

萬谷 和子

昨年(平成二十三年)六月十五日、第二十七回の「茶筌供養祭」を滞りなく済ませ、六月二十七日、京都・聚光院での大日如来開眼供養に向き、そのお席で、ご老師小野澤虎洞様に、

茶筌供養祭の経緯をご報告申し上げ、引退の決意もお伝えいたしました。その上、酒田での記念講演をお願いできないかと申し上げたところ、即決ご快諾をいただき、そのご報告も兼ねて、二十八日、伊東別院の小野澤寛海ご老師にもお礼を申上げるべく立ち寄らせていただきました。そのお席で、「萬谷さん、私があんなのご苦労を労って謝労の会を、ここでしてあげよう。」と、思ってもいなかった唐突なご提案をいただき、

……別院で……謝労の会……引き際の花道を祝つて下さるとのお言葉に、吃驚するやら、ありがたいやらで、涙が止まらず、言葉も出ませんでした。

温かな身に余るご好意の数々に、八十四歳の和子、遅咲きの姥姥と苦笑しながらも、限り無

い人様とのご縁に、深く心より感謝し、帰宅するなり、虎洞ご老師様のご講演の日程・会場選びと奔走しました。しかし十月中旬から、十一月は百名を超す人員を収容できる会場は既になく、各流派の先生方のご都合もなかなか折り合わず、虎洞ご老師様を招いてのご講演は、断念せざるを得ませんでした。

\* \* \* \* \*

## 萬谷和子さん謝労の会お誘い

早春の候、皆様におかれましては、「清祥のことと存じます。足掛け三十年に及び行われていきます「羽黒山奉納茶筌供養祭」を主催されました萬谷和子さんから、昨年の夏に「これを人生の区切りとして、今後のことは後進の方々にバトンタッチしていきたい」とのご挨拶がありました。和合の精神は、茶道の根本の禪の教えが基本となつていますが、流派を越え、皆で成すお道具に対する感謝・茶筌供養祭は、私も数年前に何度か参加させていただきましたが、全国を見回しても、他に聞き及ばない素晴らしい行いです。

この道筋をつけられた萬谷さんが退かれることは、大変残念ではありますが、長年に亘り萬

谷さんと共にこの供養祭を盛り上げて来られた皆様と一緒に、「謝労の会」を開きたく、ご案内致します。

予定としては、三月二十八日出発の一泊旅行会の形で、聚光院伊東別院にお出でいただき、拝観・短い坐禅体験等もしていただき、泊りは伊東市内。翌日は東京の村瀬治兵衛さんの漆器工房の茶会にも、私もご一緒したいと考えております。

また、この時期は瀬戸市在住の陶芸家にして、淑徳大学教授であられる寺田康雄さんの特別展(美山陶房主催)を、別院にて開催する準備も進めており、寺田先生を交えてのご欲談も楽しみたいだけるかと思っております。

お手数をお掛けし、また早急ではございますが、一月十日までに、同封のご返信ハガキをお送り下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

なお、詳しい日程表は後日ご参加の方々に、世話人よりお送りいたします予定です。

平成二十四年一月吉日  
大徳寺五二九世

(聚光院閑栖 聚光院伊東別院)

小野澤 寛 海 合掌

\* \* \* \* \*

三月二十八日、東京から参加の方々と羽田で合流、一路伊東別院へ。

伊東別院は、平成九年秋、岡崎重代女史が亡き夫の追善と、仏門興隆、世界平和を祈念し、建築設計を故吉村順三氏に依頼し創建・寄進されたもの。本院の聚光院が大徳寺の塔頭の一つで、千利休の墓所であり、茶道三千家の菩提寺になっていることから、岡崎女史は、伊東別院が禅と茶道の実践道場となるようにも意図されたこととす。

八部谷、七七面の襖絵は、この意に賛同されたニューヨーク在住の千住博画伯が、六年の歳月をかけて描き、平成十四年二月に寄進されました。千住画伯は、素材・技法とも日本画の枠にとらわれず、大胆に新しい表現を模索し、国内外で数多くの賞を受賞し、幅広く世界で活躍しておられる日本画家です。

その全室を貸切り、儀式は厳肅に行われ、寛海ご老師のご講話・坐禅体験もさせていただき、夜はガラリと趣向を変えて、ご老師様を交えての懇親と、一日目はアツという間。二日目の二十九日は、ご老師も同乗されて、東京の村瀬治兵衛漆器工房へ。途中、車窓から眺めた秀麗富士



は、前日の荘厳な儀式と共に、心に焼きついております。

村瀬工房においては、お心のこもった点心に、三代治兵衛様のお話をお聞きしながらの衣服は、心に染み入りました。

和やかな語らいのつきない中で、寛海ご老師様をお見送りし、二日に亘つた「謝労の会」の全行程を終え、空路帰途に着きました。

何と充実した二日間だったことか。思いもかけないご褒美と、至福を味わった二日間でした。今年(平成二十四年)も六月十五日、「茶筌供養祭」は、後進の先生方のご企画のもと開催されました。新たな貢献をして下さることと、心から願っております。

生きることは

一筋がよし 寒椿

(五所平之助)

# 「諸家文書目録Ⅱ」

## 田中家文書

光丘文庫古典籍調査員  
杉原丈夫

はじめに

光丘文庫では、所蔵する史料が活用できるように、『諸家文書目録Ⅰ〜Ⅵ』を刊行している。これまで館報「光丘」に「伊東家文書」（『諸家文書目録Ⅰ』）を紹介してきたが、今回は「田中家文書」（『諸家文書目録Ⅱ』）について紹介することにしたい。「田中家文書」を所蔵していた田中家は、酒田市平田地区熊野田に代々居住し、郷村の役人即ち平田郷の用水堰を管理するただ一人の大堰守を歴任していた。しかも、居村の熊野田村さらには上漆曾根村等数か村の肝煎をも兼帯していた豪農である。従って、江戸時代に庄内藩の郷村支配における末端機構を担い、村政や水利を通じて周辺地域に大きな影響を与える存在だったといえる。

これは、光丘文庫所蔵の「諸家文書」の中でも「伊東家文書」について二番目に多い点数である。

分類項目の内訳は、別表(1)の通りとなっている。

別表 1 分類項目別の内訳

No.	分類No.	分類項目	文書点数
1	19	家	516
2	8	土木・建築	405
3	11	農業用水	369
4	2	土地	336
5	4	村	109
6	10	農林業	91
7	3	租税	86
8	1	支配	60
9	12	金融・貸借	58
10	9	産業・職業	45
11	7	災害・救恤	40
12	16	宗教	34
13		戸口、治安、商業、売買、交通、運輸、習俗、学芸、手蔵田登記所など	1120
	計		3269

※内訳の順番は多い方から

点数は「家」が一番多いが、「土木・建築」と「農業用水」を合計すると約八〇〇点で、大堰守としての史料が数多く残されており、領ける文書構成である。

### 二 田中家文書から分ること

#### (一) 田中家の略歴

田中家は、延宝六年（一六七八）傳吉の代に平田郷大堰守及び熊野田村ほか数か村の肝煎を勤めるようになり、その後代々に亘ってその職を継承してきた家柄であった。

『酒田市合併村史』（二〇〇一年酒田市発行）には、「明治に入り田中元助は、第五大区三小区（漆曾根組、大町組、飛鳥）の用掛（大沼

町組、飛鳥）の用掛（大沼広太と二人）となり、郡制施行後、大槻新田、手蔵田熊野田、荻島四か村の戸長を勤め、明治二年（一八八九）に初代中平田村の村長となった」とある。

#### (二) 田中家文書の特徴

##### ① 郷村に関する基本史料

村の概略を明示する史料として、「明細書上帳」「差出明細書写」、熊野田村「村誌」などが入っている。

また、平田郷四組（田沢組、山橋組、漆曾根組、大町組）の全てが出揃っている訳ではないが、「山橋組村々高帳」、「平田郷郷村高帳」等は、平田郷各村の年貢高、諸浮役高、担当大組頭及び肝煎名が明示されている。貴重な史料となっている。

##### ② 用水に関する史料

大堰守としての史料は点数で言うとはやはり最も多いが、川北三郷の用水の取り決めである宝永三年（一七〇六）「用水定証文」が基本史料で、用水の水争いに関する史料が多い。

図 1 江戸期平田郷の組と各村

漆曾根組		山橋組	田沢組
大組頭卯七	大組頭直治郎	山橋村	田沢村
牧曾根村	布目村	小女房村	小女房村
上興屋村	古青渡村	勤左衛門新田	勤左衛門新田
中野曾根村	古曾根田村	中村	中村
上・中・下漆曾根村	関村	杉村	杉村
町屋村	境興屋村	北中野村	北中野村
新青渡村	中興屋村	南中野村	南中野村
圓能寺村	中平沢村	北中野村	北中野村
下小堤村	大金大横村	北中野村	北中野村
上小堤村	大横村	北中野村	北中野村
熊野田村	大横村	北中野村	北中野村
熊野田興屋村	大横村	北中野村	北中野村
勝保関村	大横村	北中野村	北中野村
土崎村	大横村	北中野村	北中野村
荻島村	大横村	北中野村	北中野村
手蔵田村	大横村	北中野村	北中野村
手蔵田興屋村	大横村	北中野村	北中野村
福島村	大横村	北中野村	北中野村
中野新田村	大横村	北中野村	北中野村
大野新田村	大横村	北中野村	北中野村
楯野内新田村	大横村	北中野村	北中野村
太田新田村	大横村	北中野村	北中野村
大町組	大町組	大町組	大町組
鵜渡川原	内町	濱町	米屋町
酒田町分	濱田	大町	大町
四ツ上衆作	同心	大町	大町
馬古荒新田村	御新	大町	大町
小牧	遊部	大町	大町

上記の図は「荘内要覧」「飽海郡誌」より作成  
※漆曾根組はさらに2組編成になり、大組頭（田中）卯七は手蔵田が居村であった。

写真を掲載した文政十一年（一八二八）の文書もその一つである。

要約すると、横代村の百姓清三郎が、熊野田村請の水門を勝手に開けて、自分の谷地に水を引いてしまったので、熊野田村の村役人並びに惣村中に、申し訳ないと詫言を入れたものである。



文政 11 年 (1828) 5 月 証文

平田郷には数多くの村落があるが、農業用水については死活問題であり、村同士の紛争が絶えなかつことを窺い知ることができる。

おわりに

現在、全国的に村の歴史、そして村役人研究が盛んに行われるようになって来ている。

江戸後期より明治以降において大堰守、肝煎を歴任した田中家の文書は、近世から近代へと大きく移り変わる時代の歴史の解明になくてはならない史料である。多くの方々に活かされていくことを期待したい。



### 平成二十四年度の 図書館運営

図書館長 小松 秀司

#### 一 図書館の運営方針

図書館は、生涯学習機関であり、また地域の情報センターの役割を担っています。市民が安心していつでも快適に利用できるように、幅広い分野の図書資料や情報の充実・整理・保存に努めるとともに、施設環境の整備を図り図書館サービスを充実し、市民の多様な要望に応えるよう努めます。

また、「おやこ読み聞かせ教室」の開催や読書ボランティアの育成、ブックスタート事業への支援など「酒田市子ども読書活動推進計画」に基づく施策を推進します。

#### 二 図書館の重点施策

##### ① 図書資料の整備充実

市民の読書要望に応えるために有用な資料や情報の収集・提供に努めるとともに、レファレ

ンス（参考・調査業務）サービスやインターネットを利用した資料検索やリクエスト（予約）サービスの充実、大活字本やDVD等の視聴覚資料等の充実に努めます。



##### ② 子ども読書活動の推進

「酒田市子ども読書活動推進計画」に掲げた主要事業を展開していきます。

具体的には、児童図書の充実や、ブックスタートへの支援をはじめ、幼児期からの読書推進に努め、子どもたちの読書活動への支援を行います。

さらに、絵本作家の講演会、児童読書関連の各種講座やお話し会を開催し、乳幼児期からの読書の大切さや楽しさをより多くの方々に伝えていきたいと考えています。

##### ③ 図書システムの活用

中央図書館、ひらた図書館センター及び松山分館、八幡分館、東北公益文科大学間のネットワーク機能を活かすなど連携をさらに強化し、地域の均衡ある図書利用の拡大に努めます。

##### ④ 書架等の耐震化

ひらた図書館センター等の書架について転倒防止対策を行い、安全性の向上を図ります。



### 光丘文庫

#### 平成二十四年度の取り組み

光丘文庫は、財団法人光丘文庫、そして酒田書籍購読会、酒田文庫、私立酒田図書館から受け継いだ古典籍、漢籍、準漢籍等及び古記録、個人の旧蔵書を

所蔵する現役の図書館です。また、最近では、酒田市指定文化財としての建物等を見学する方々の利用が多くなっています。

光丘文庫の現況を踏まえ、貴重な資料を生かすため、次の点に留意して運営に当たります。

##### ① 資料の整理・保管

古文書等の散逸を防ぎ、郷土史関連の資料の充実を図るとともに、適切な管理に努めます。

##### ② 資料の活用

閲覧者へのサービスに努め、古文書や絵図以外は、資料の劣化や装丁に影響のない範囲で、有料のコピーサービスをいたします。

また資料の利用向上のため、古典籍調査及び目録の作成を行い、資料の紹介に努めます。今年度は、『諸家文書目録Ⅶ』を刊行します。

##### ③ 資料の展示

光丘文庫で所蔵する酒田のお宝が、市民の皆様にも身近なものになるように、テーマを決めて、光丘文庫所蔵資料展を開催します。年二回の展示替えを予定しています。

##### ④ 現況調査事業

光丘文庫とその所蔵資料を本市の歴史的財産として守り後世に伝えていくため、本館建物の

現況調査及び保存のあり方の基礎調査を行います。



#### 《執筆者紹介》

・北原 糸子

(立命館大学歴史都市

防災研究センター教授)

・角 田 分

(日本白鳥の会理事)

・遠 山 茂 樹

(東北公益文科大学教授、

ニュージールランド研究所)

・萬 谷 和 子

(羽黒山茶釜供養祭奉賛会

なごみ会会長)

・杉 原 丈 夫

(光丘文庫古典籍調査員)

酒田市直立図書館ホームページ

<http://library.city.sakata.lg.jp/>

デザイン 佐藤 十 弥

発行

酒田市直立中央図書館  
酒田市直立光丘文庫

酒田市中心西町二番五九号  
酒田市日吉町二丁目七番七一号

電話(24)二九九六番  
電話(22)〇五五一番

印刷(南)中央印刷